



宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校学校だより 第25号 (H23.11.24)

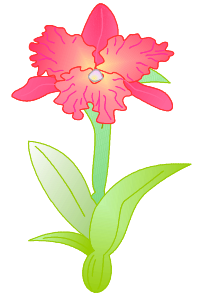
宮崎県都城市妻ヶ丘町27-15

TEL: 0986-23-0223 FAX: 0986-24-5884

校長 前田 哲司

しつ じつ ごう けん
質 実 剛 健

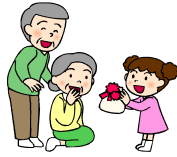
「実力と気品をそなえ、たくましくあれ！」



「高齢者福祉について考えよう！」

～研心の時間（よのなか科）の授業から～

学校だより24号でお知らせしたように11月17日に高齢者福祉についての授業を行いました。正解のない授業よのなか科の授業を受けた子どもたちの感想を紹介します。



■今日は、親の方にも来ていただき福祉について考えた。今までは、他人のこのように考えていたので、今回のことで改めて考え直すことができた。自分の親がもしくは自分かと思うと怖くなった。正解のない問題について考えることで深め合うことができたので充実した授業だった。家に帰ってから家族と話し合ってみたくと思った。

■私は、子としての考えしかもっていなかったもので、親の方から親の考え方を聞いたとき、「ああそういうふうに思っているんだ」と何か新鮮な感じがしました。

■私はディベートの題に賛成だったのですが反対意見を聞いてみると少し心が揺れる部分もあり、とても将来のためになる授業だと思いました。また奥田さんのお父さんの意見がすごいなあと思いました。

■「賛成」にはしたけれど親が入りたくないと言ったらとても難しい選択だなあと思いました。家族みんなですっきりと話し合ってみんなが楽しく明るい生活を送れるようにしたいなあと思いました。両親が体が不自由になるということは想像ができないことだけど、いずれはそうなってしまうと思います。その時に思いつめて考えるよりも少しずついろんな角度から考えて親が満足できるような暮らしをしてほしいです。

■私は今まで将来の親の介護なんて考えたことがなかったけれど、今日ディベートをしてみて、やはり私は施設に入れたら親を見捨てる感じがして嫌だと思いました。しかし、自分の仕事のことや介護をやりきれるかななどを考えたら施設に入れた方がいいかなあと思いました。この質問には正解がないということが分かりました。もし、自分の親が介護を必要とする日が来たときは、みんなで支え合っていきたいと思います。

■～この問題は、その時の生活の状態や家族の気持ちを聞いて決めたいと思います。もし、母や父が施設に入りたくないと言ったときは、恩返しするために自分で介護します。

■ディベートをしていろいろな意見が聞けて、どれも納得しました。でも、私ならやっぱり親と一緒にいたい。もし、GTのお母さんみたいな病気になったら落ち着くまで病院（施設）に入れて落ち着いたら家で介護するという方法をとります。私は、両親にもものすごく迷惑をかけました。その恩に、介護して恩を返したいものです。

■～今回の授業は正解がないからいろんな意見がでるけど、正解がないからこそどういいう説得をすればよいかとても迷うところでした。ディベートはとても良い経験になりました。

■～将来、孫子老のつながりを大切にして生きていきたいと思いました。



左：ゲストティーチャー
高野 眞 先生

【生徒や保護者の発表、ディベートの様子】

企業探訪 ～ケーブルテレビ・霧島酒造株式会社を訪ねる～



【ケーブルTVアナウンサー長友梨恵さん】



【霧島酒造（株）伊賀崎 繁 取締役管理本部長】

11月16日（水）に企業探訪として、2年生がケーブルテレビ・霧島酒造株式会社を訪問しました。それぞれの会社を訪問した目的は、ケーブルテレビでは、長友さんにマスコミに就職するまでの経験を聞き、どうしてその職業を選んだのか動機を聞いたり、職場を見学したりすることで、マスコミの仕組みを理解し、社会にどう貢献しているのかなど見聞することにあります。また、霧島酒造では、伊賀崎取締役の講話を聞くことで、企業における社会に対する責任や役割を認識し、子供たちに企業経営者としての資質や態度について考えるとともに、作業場を見学することで、企業のしくみを理解することにあります。

■～ケーブルテレビでは一人で編集も放送もして一つの番組を作ると聞きとても驚きました。自分の作った番組は全て自分の責任になるというプレッシャーに今の私には耐えられないかもしれません。とても忙しく責任も重い大変な仕事をこなしているケーブルテレビの方々には尊敬の念を覚えました。

■～講話の中で興味をもったことは、霧島酒造が環境について考えていて、地域と密接に関わっていることです。将来企業で働くなら霧島酒造のような企業に入りたいです。今日は貴重な体験をさせてくださってありがとうございました。



協調学習の実践！～三重野先生の研究授業に東京大学や九州各地から先生方が来校される～

11月18日（金）に東京大学と連携して行っています協調学習の国語科の研究授業を三重野先生が2年生で行いました。単元は「走れメロス」誰でもが知っている題材です。授業の柱となる課題は、「作者は『人質』と『走れメロス』の違いによって何を表現したかったのだろうか」そして、課題について子供たちに語れてほしいストーリーは、「作者が『人質』から書き加えていった所に主題をつかむヒントが隠れていると仮定し、その中から、王の心を揺り動かしたもの、メロスを走らせたものなどの意見を出してほしい」というところにあります。三重野先生・黒木先生は東京大学の研究推進委員となり日々協調学習について東京大学と連携しながら、また、全国各地の先生方と一緒に取り組んでいます。

